

会 議 録

名 称		市川市子ども・子育て会議（令和４年度第２回）
議題及び議題 毎の公開・非 公開の別 ※非公開の場合は公 文書公開条例第８条 の項号を記載する		議題１：子ども・子育て支援事業計画のアウトカム指標による評価及び 中間見直しについて その他意見交換
開 催 日 時 場 所		令和５年３月２８日（火）１０時００分～１２時００分 市川市役所第１庁舎５階 第３、４委員会室、会議室６
出 席 者	委 員	高尾 公矢、松野 真、田口 安克、緒方 恵、石塚 浩、桑原 京子、 吉原 正実、近藤 靖宏、遠藤 範子、望月 法子
	事務局 (所管課)	こども政策部 こども家庭支援課
	関 係 課 等	こども福祉課、こども施設入園課、こども施設運営課、こども施設計画課、発 達支援課、保健センター健康支援課、青少年育成課、指導課
傍 聴 区 分		☒ （０人） ・ 不可
会議の概要 ※詳細別紙		
配 布 資 料		資料１：子ども・子育て支援事業計画のアウトカム指標による評価につい て 資料１－１：アンケート調査票及び回答結果 資料２：子ども・子育て支援事業計画の中間見直しについて 資料２－１：子ども・子育て支援事業計画の中間見直しについて 【① 量の見込み】 【② 地域子ども・子育て支援事業の量の見込み】 資料３：こどもの医療費助成事業について 資料４：特別支援保育推進事業について
特 記 事 項		

別紙

市川市子ども・子育て会議（令和４年度第２回）（詳細）

- 1 開催日時：令和５年３月２８日（火）１０時００分～１２時００分
- 2 場 所：市川市役所第１庁舎５階 第３、４委員会室、会議室６
- 3 出席者：
委 員 高尾 公矢、松野 真、田口 安克、緒方 恵、石塚 浩、桑原 京子、
吉原 正実、近藤 靖宏、遠藤 範子、望月 法子
市川市 秋本こども政策部長、杉山こども政策部次長、宮崎こども家庭支援課長、
渡部こども福祉課長、若菜こども施設入園課長、高橋こども施設運営課長、
藤井こども施設運営課副参事、長谷川こども施設計画課長、高橋発達支援課長、
高橋保健センター健康支援課長、富永指導課長
- 4 議 題：
1. 子ども・子育て支援事業計画のアウトカム指標による評価及び中間見直しについて
- 5 その他意見交換
- 6 配布資料：
資料１ : 子ども・子育て支援事業計画のアウトカム指標による評価について
資料１－１ : アンケート調査票及び回答結果
資料２ : 子ども・子育て支援事業計画の中間見直しについて
資料２－１ : 子ども・子育て支援事業計画の中間見直しについて
【① 量の見込み】
【② 地域子ども・子育て支援事業の量の見込み】
資料３ : こどもの医療費助成事業について
資料４ : 特別支援保育推進事業について

【午前 10 時開会】

高尾会長	それでは、只今より令和 4 年度第 2 回市川市子ども・子育て会議を開始いたします。 さきほど事務局から連絡がありましたが、本日、5 名の方が欠席です。 委員の半数以上が出席しておりますので、本日の会議は成立いたします。 次に、本日の会議の公開に関して委員の皆様にお諮りいたします。 「市川市審議会等の会議の公開に関する指針」に基づき、個人が特定できる議題等を審議する場合を除いて、会議は原則として公開することとなっております。 本日は特に非公開にすべき議題はございませんので、会議を公開したいと思います が、ご異議はございませんでしょうか。 （異議なし） それでは、本日の会議は公開することといたします。 事務局に伺います。本日、傍聴希望者はいらっしゃいますか。
事務局	本日、傍聴希望の方はいらっしゃいません。
高尾会長	それでは、「議題 1 子ども・子育て支援事業計画のアウトカム指標による評価及び 中間見直しについて」を議題といたします。 事務局より説明をお願いいたします。
こども家庭 支援課長	【資料 1、資料 1－1、資料 2 及び資料 2－1 に基づき説明】
高尾会長	只今、事務局より説明がありました。 ご意見・ご質問等がございましたらお願いいたします。
近藤委員	資料 1 の「3. 結果の集計」について、設問が十何問もありますけれども、「わからない」という回答が非常に多いものがあります。例えば、Q13、14、15、16 について ですが、こういった「わからない」の理由というのがそれぞれ議論されているの か、というのと、あとは、その設問ごとに、この「わからない」の割合というものを どう考えているのかということを事務局からお願いいたします。

こども家庭 支援課長	はい、お答えいたします。 「わからない」の比率につきまして設問をそれぞれ見ていきますと、例えば虐待防止であったり、ひとり親家庭の話であったり、発達の支援が必要な子どもというような項目について、「わからない」と答える人が多いです。 やはり、ある程度特殊なニーズを持った人たちを対象とする施策については、当事者でない方からすると、「わからない」と答える人がどうしても多くなるというふうに推察をしております。ただ一方で、市のPRというものが必要だということも認識をしております。
高尾会長	当事者でないと「わからない」というような回答になるという説明でしたけど、よろしいですか。
近藤委員	ありがとうございます。 それについてもう一点、例えば、Q16の仕事と子育ての両立支援に関しては、そういったものにあまり該当しないものなのかなと思うのですが、そちらに関してはいかがでしょうか。
こども家庭 支援課長	仕事と子育ての両立支援については、子育て応援企業や家族の週間というものが施策例として計画上位置付けられており、これに満足していますかという質問をしております。計画のつくりとして出している施策の例が実感としてわかりづらかったと考えております。
近藤委員	ありがとうございます。このQ16に関して、他の平均点数の増減率と比べて非常に高いので、本当にこの結果が実態を反映しているのかが判断できないと思ったのでこの質問をさせていただきました。
高尾会長	「資料1. WEBアンケート結果のまとめ」について、ひとつよろしいでしょうか。 良かった点については、いいと思うのですが、悪かった点で例えば、施策の方向8の経済支援の充実に、児童手当の支給というのは、市独自の施策ではないわけですが、子どもの医療費の一部助成は色々な自治体で無料化していく方向が打ち出されておりますので、それを比較すれば問題があるかなという、そういう捉え方でよろしいでしょうか。
こども家庭 支援課長	その通りです。

高尾会長	それから、悪かった点で、保育園における一時預かりとか、あるいは、幼稚園の保育時間終了後の預かり保育というようなことが不十分だという意見ですけれども、これはコロナの影響などもあるという理解でよろしいでしょうか。
こども家庭支援課長	その通りです。
高尾会長	今後、保育園における一時預かりや幼稚園の保育時間終了後における預かり保育について、コロナが落ちついてきましたので、今後利用がなされていくだろうということでもよろしいわけですね。 他にご意見・ご質問等がございましたらお願いいたします。
松野委員	先ほどの近藤委員のご質問と関わってきますが、やはり私もこの「わからない」という層がどうなのかなと思いました。 アンケートの作りにもよるかと思いますが、多分いろいろな施策があって、ただ満足度を聞くだけではなくて、回答されている方が、その施策について知っているかどうかについてもアンケートで質問すれば、もう少し中身が見えてくるのかなというような感じがちょっとしました。
高尾会長	そうですね。アンケートを取る際に、知っているか知らないかということを満足度とクロスさせてみると、もう少し内容を深められるかなということですね。 アウトカム評価に関してはこれでよろしいでしょうか。それでは、次に参ります。 中間見直しに関しまして、ご質問・ご質問等があればお願いいたします。 吉原委員いかがでしょうか。
吉原委員	北部地区の教育ニーズがすごく増えていますが、その理由というか、なんでこんなに数字が乖離したのか、ちょっとよくわかりません。その辺のところをご説明いただけるとありがたいです。
高尾会長	事務局からお願いいたします。
こども施設計画課長	資料2-1をご覧ください。考えられる要因ですが、1つは、資料の真ん中に、推計人口、自治体の人口がございまして、こうやって見ると北部だけ人口が増えていることが1つの原因かと思います。 もう1点が、この北部地区の計画と現状の乖離で、1号の需要が1,689人で、827人増となりますが、その一つ上の、2号は若干減っております。もしかすると、当初、保育を希望された方が、教育施設に入園された可能性もあるかと思います。 しかしながら、北部の1,689人という数字は、中部地区1号の1,958人と比較して、決

	して過大な数字ではないと思っております。むしろ、計画当初の想定よりもこの1,689人の方が、実態に合った数字なのではないかと、今想定しているところでございます。
吉原委員	そうしますと、令和4年の北部1号の需要が862人。これはどのような形で算出していますか。
こども施設 計画課長	推計児童数とアンケート回答から割り出した希望割合を掛けて算出しています。当時のアンケート回答と、現在、実際に使われている方との乖離が生じているので、アンケートよりも実際の数字の方が実態に近いのではないかと考えています。
吉原委員	こんなに、1号を希望されている方が増えているという実感がないのでびっくりしております。2号が増えるのはある程度理解できますが、1号が増えているということは、現在の状況を踏まえますと、何故なんだろうって思いますね。 この数字が、今後どのようになっていくのか、非常に難しい問題だなと思いました。需要に基づいて、やっぱり、ある程度1号の受け入れの方を増やすとか、何か考えなきゃいけないのかなと思って見ております。
高尾会長	増えた要因は要するに、北部に住宅地が広がっていつているということもあるのでしょうか。
こども施設 計画課長	実際、北部の方は住宅開発とかで人口が増えているという事実はあると思います。
高尾会長	私、北部を車で通るものですから、梨畑に住宅地が広がっているというようなことが目に付くような状況です。多分、そういう影響があるのかなという感じはします。ただ、吉原委員がおっしゃるように、なぜ、1号なのかという点が非常に不思議ではありますよね。 今、いろいろなところで聞きますと、この物価高とかいろんな問題がありまして、お母さん方が働き出したということをよく聞くわけですね。だから例えば、北部の地域ですとか、私の住んでいる白井の地域ですと、都内に出るのに1時間ぐらいかかるのですが、それでも、都内で働きに行くというような話はよく聞きます。 ですから、保育事業が非常に伸びているという話は聞いています。住宅の土地が比較的安いことで、若い人が来やすいことが影響しているのだと思いますけど。 他にご意見があれば、お願いします

田口委員	資料2-1の南部地区の1号について質問させてください。こちらは、マイナス45%の乖離ですが、こちらに関して、今回、見直しをしないというところの理由を教えてくださいなればと思います。
こども家庭支援課長	南部地区、こちらは私どもも判断に迷ったところではありますが、下方修正ということになると、ある程度慎重な判断を要するかなというのがまず一つございます。 先ほどの南部、要するに定員割れという状態ではありますが、北部では余っているという状況、地域差が著しいということ、一方で、3～5歳の保育ニーズは17.8%と高い状況を示しているというようなこと。 トータルで考えましたときに、既存施設としてすでにある幼稚園に、現状に入っている定員、或いは運営上の問題もありますので、ちょっとこれは下方修正するかどうかについてトータルで考えた方がいいかなということで、1回慎重に検討したものでございます。
高尾会長	他にご意見がありましたらお願いしたいと思います。 いかがでしょうか。はい、どうぞ。
桑原委員	桑原です。南地区は、ちょっと定員割れしてきているということで、やはりニーズがあったことで、どんどん保育園を増やしていったのかなと思うんですね。 それがだんだん中部から北部の方に移ってきているんですけども、やはり中部から北部でも、定員割れも少し出てきているわけです。それでもやはり、来年度、再来年度もまだ保育園を立て続けるとか、増やすという計画をお聞きしたんですね。 そうするとやはり私達にもとても影響があるんですけども、運営課さんの方で、補助金の見直しということをして今年の2月末にしまして、余りにも急だったので5年度は経過措置ということで現存のままということなんですけども、やはり補助金を減額したいと。そういうお考えで、6年度以降はまた見直しでどういうふうになるか検討されるかなと思うんですけども、そういう中で、また新しく保育園を建てる。そして、そちらの方に補助金が回るのかなと思うんですけども、私たちは減らされて、また保育園を建てて、そこが納得いかないところで、もし建てなくても済むんだったら、待機児童ゼロにする前は、既存の保育園の方で受け入れられるんでしたら、そこでお願いしたいという市長さんのお考えで、私たちもお部屋が広い保育園とかでできるだけ受け入れますからっていう、そういう市の方と民間の保育園で話し合いのもとやってきたんですけども、やっぱりそこがお子さんの需要があるから、どんどん増えているのかなと思うんですけども、もう少し、もうこれでいいんじゃないかなって、私たちは思うんです。そこは今後またどういうふうに考えてらっしゃるのかなと思いますので、お聞きしたいと思いますのでよろしくお願いします。

高尾会長	今、ご質問ありましたように、まず、特に地域差があつて、特に南部の問題ですよ ね。 子どもが少なくなっている。つまり、定員割れしている園が出てきているとい うようなことを踏まえて、補助金の問題はちょっと、ここでの議論の対象にはなら ないわけですが、今後の南部の問題ですね、保育所を増やしていくというこ とに対する考え方をですね、お聞きしたいというふうなわけですが、事務局の方か らお願いいたします。
こども施設 計画課長	周辺整備の考え方について説明させていただきます。 確かにおっしゃる通り、国基準の待機児童はゼロなんですけども、実際に、入園で きない方が相当数いらっしゃいまして、その地域が特にやっぱり北部地区でござい ます。この中国分地区ですとか大柏地区、かなり厳しい状況でございますので、令 和5年度は、この北部等に整備する予定で南部を整備する予定はございません。 いつまでかというのは難しいところなんですけども、保育園の申請者数は、実は未 だに伸び続けておりまして、国でも令和7年ぐらいがピークではないかと考えており ますので、少なくとも令和5年度と令和6年度は、必要な数、整備が必要じゃないか と考えているということです。以上です。
桑原委員	まだ今後は、続けて整備するということなんですよ。 やはり数字の上でまた必要だということで、お作りになるのかなと思うんですけ ど。 多分、現状とはまたちょっと違うような気もするので、考えていただけたらと思 ったんですが。
高尾会長	今の事務局の説明ですと、令和5年度は、まずは南部は整備しないということですよ ね。令和6年度でも多分整備しないということでしょう。 北部の方が足りないわけだから、若干整備しますよと、こういう理解でよろしいで しょうか。他に、ご意見がありましたらお願いしたいというふうに思います。 少子化の影響等の話も関わってきますけれども、やっぱり少子化の影響というのは やっぱり大きいわけですよ。 この前、2022年の出生数の発表がありましたけれども、79万人ね。ただ、日本国籍 の人だけでいうと77万人なんですよ。そしてさらに、我々団塊の世代のベビーブ ームの時代は、1年間に270万人の子どもが生まれているんですよ。大ざっぱに言 うと、200万人ぐらい1年間に子供が少なくなっているということです。というこ とはものすごい影響ですよ。先ほど発表がありましたけれども、大学が一部閉鎖す

	るということもあり、実際に、もう集まらないんですよね。ですから統合とかいうことが起こってきているということですね。 ちょっと余談ですけど、東京大学が割合入りやすくなったと。今まで入れなかったような学生が入っていらっしゃる。そういう話も出てきてですね、学力ということですね。 だから、その点はいいいことだと思いますけど。ちょっと学力レベルから言うとなんのかなという問題が起こってくるということです。大変な問題を引き起こしているということなんです。おそらく今の政策、政府がやろうとしている政策を進めたとしても、おそらく増えないんですよ。もうこれ断言できると、このやり方では駄目だと思うんですね。異次元だとか次元が異なる対策だとかって言っていますが、あれでは増えない。 だって30年間エンゼルプランをやってきたわけですから、ほとんど増えなかったわけですよ。同じようなことをやろうとしているわけですよ。だから、政策をレベルアップしたとしても、内容が全く違うわけであり、あくまでも子育て対策なんですよね。それやることは重要だけど、実際には、少子化対策じゃないんですよ。結婚しない人が出てきてるわけですから。そういう人は子どもを産まないわけです。子育て対策を一生懸命やっている、重要なことだけでも、それによって子どもは増えないですよ。やっぱり生活の安定がないとそれは難しいんですよ。だから、政策が全く間違っていると言うことになりますよね。一生懸命、何か研究者たちも今の政策を進めるんだということを言っていますが、何を言っているかよくわからないですね。国会の議論聞いていても、全くわからないですね、というのが現状だと思います。ですから今後、少子化がもっと進んでいく。だから保育園幼稚園はもっと大変になるというふうには考えられますね。 政策的にも、設置の在り方、整備の在り方ということを考えていかないと難しいかもしれませんね。はいどうぞ。
吉原委員	吉原でございます。ちょっとお伺いしたいんですが、南部の方の1号が45%減っているというふうになったわけですが、そうすると今後2号認定の利用定員1号認定の利用定員を含めてですね、各施設の、今のお話ですと、利用定員の変更ということは、計画課さん、市川の方では、やっぱり取り組んでいく課題というふうに捉えてよろしいでしょうか。
こども施設 計画課長	利用定員の変更も今後の課題だと考えています。
吉原委員	1号2号合わせてということによろしいですよ。

高尾会長	当然、考えざるをえないというところまで追い込まれているってことだと思います。 よろしいでしょうか。他に。ご意見はい、どうぞ。
近藤委員	資料2の中間見直しについて、見直しの概要っていうところで、お伺いしたいんですが。こういった知識がないので、ちょっとわからないんですが、乖離が大きい場合、小さい場合、その乖離だけを、見ている感じなんですけれども、その変化率、年度ごと多分、統計等取られていると思うんですけれども、そういった変化率等を考慮して、変化率と乖離の2点を考慮して、人数なり、需要なりというものを考えるべきなのではないのかなと思ったんですけれども、ちょっと教えていただければと思います。
こども家庭 支援課長	事務局よりお答えいたします。 おっしゃる通りでございまして、国が示す手順に基づいて計画と現状を比較し、乖離というのに基づいて行いましたが、おっしゃる通り変化率ですね、というのは非常に大きな要素であると考えております。 一応伸び率というようなものも算定して、ここにはお示しをしておりますが、だいたいプラマイそれも1割以内に収まって、大きな変動率を示した層はそれほどなかったというところで一旦こういう判断をしたところでございます。
高尾会長	よろしいですか。コロナの影響というのはやっぱり、大きかったというふうに思いますので、その点を踏まえて考えていく必要があるかと。 はい、他にご質問あればお願いしたいと。はい、どうぞ。
石塚委員	この状況、私よくわかってないところで大変恥ずかしいんですが、先ほどの北部地区の想定を超えた827名、このお子さんたちはどういうふうになっているんですかというところをちょっと、教えていただきたいなと思うんですが。
こども施設 計画課長	北部地区の教育施設ですけれども、例えば、公立の百合台幼稚園は人数がかなり減っています。あと、私立の幼稚園でも人数が減っていると伺っています。従いまして、定員に余裕がある状況ですので、この827人増えたとしても、それが溢れてしまうことなく十分に収まっているという状況だと思います。
吉原委員	吉原です。これは収まっているっていうことは、ここの800増えた人数は、既存の施設で吸収できているというふうに判断してよろしいと。 そうすると、800人増えた分が各施設の園児数が増えているという結果になっていな

	いといけないと思うんですが、その辺の把握はできていらっしゃるんですか。できていないのかどちらでしょうか。
こども施設 計画課長	多分繰り返してになってしまうと思うんですけど、800増えた、今の数字が実態をよく表していると思ってしまして、結果的には860人弱はちょっと少なすぎた、と考えているところでございます。
吉原委員	要は、そうすると、令和5年は1600人が来園しているというふうに判断していいわけですね。ということは増えた部分が、今の説明ですと公立幼稚園、私立幼稚園の1号認定として、各園に割り振られているから、そのこの地区にある幼稚園の園児数は増えているということによろしいわけですか。
こども施設 計画課長	ちょっとわかりにくくて申し訳ありません。1689人というのは今のリアルな数字なんですけれども、この計画の862人というのは想定需要でございまして、実際にこの時に入られた園児の方が862人だったというわけではないです。ですので、実際の人数が800人増えたってということではないと考えています。
吉原委員	ですね。そうすると、今、想定を見直してですね1号認定の想定需要も現状じゃなくて修正するって言ったことと、何か矛盾するように思うんですが、現実の数字と答弁の数字とが乖離しているということっていうふうに聞き取れてしまうんですけれども、その辺はいかがでしょうか。
こども施設 計画課長	先ほどの資料2のご説明の中で、まず、量の見込みを見直しまして、必要があれば、確保方策の修正、例えば、施設数を増やすとかということも検討することとなっておりますが、現状では、その必要はないと考えております。この量の見込みが増えたからといって、確保方策を今増やしていく考えは持っていないです。
高尾会長	つまり、こういう想定が必要が間違っていたということによろしいですか。
こども施設 計画課長	その辺の需要が今から言うと、現実に合わせていなかったのではないかと考えています。
高尾会長	要するに今現状のニーズは1689人なわけだから、それが全部収まっていると。希望通り収まっていると。各園にね。ということによろしいですかね。

こども施設 計画課長	おそらく定員は概算ですと3,000名弱の定員ですので、この1689人は十分収まってい ると考えています。
高尾会長	だから、今後はいわゆるその点は注意して、需要を考えていかなきゃいけないけれ ども現状では、特に見直す必要はないと言うことですね。それでよろしいでしょ うか。
吉原委員	ありがとうございます。すごく理解できにくいというか、先ほど、検証の結果、今 後の想定需要を現状に合わせ修正する、というふうになっていますので、そうする と、一体この数字は何なのだろうなあと、1,689というのが。すごくちょっと疑問に 思っています。 それに合わせてさっきの結果のところ、見直しを行うということになっていたわ けなので、その辺のところですね、大変申し訳ないんですけども、この1689人、現 状で増えてきたとか、どうやって重視されたのかとか、ちょっと我々にはちょっと 想像ができないので、何ていうか、現実問題として北部の1号認定の数、各園の園児 数っていうのは、私が把握しているのは私立だけになりますけれども、昨年よりも 減っているわけです。実数は。 1,689人、想定より増えている、全員入っているっていうのは間違いないでしょう けれども、でも増えてはいないのが現実ですから、そうすると、一体ここの1号認定 の数字は何なのだろう、現状正しい状態を表している数字なのかっていうのが、私 はちょっと理解ができない。 どうしてこの数字が出てくるのかとか、ちょっとよくわからないんですけども。
こども施設 計画課長	申し訳ありません。1,689人というのは実際の数字です。 ただ、860人というのはあくまで想定ですので、800人増えたっていうわけじゃなく て、もしかすると昔はもっと、実際の需要が1800人とかいて、減少になっているで はないかと考えているところです。 実際に800人増えたっていうわけでは、比較の対象がもしかしたらおかしいのかもしれ ないけども、想定需要と、今、実際の現実の数字ということです。
吉原委員	わかりましたが、そうするとこの令和4年の想定需要862という数字の根拠はどう やって出てきたのかなっていう、すごく疑問に思ったり、中間見直しをする前も、 どうしてこういう計画になったのかなっていうのをちょっと思うわけなんですけど も、今ここでそういう話をしても先へは進みませんので、理解はしましたけど、し かしながら今後の想定需要を現状に合わせて修正するのであれば、やっぱりこうい うような、理解できないようなことがないようにしていただけないといけないので

	はないかなと私は個人的に思うわけです。以上でございます。
高尾会長	はい。事務局で意見はありますか。よろしいですか。
こども家庭 支援課長	やはり5年間の計画ですのでこれを立てた時の令和元年度の予測が800だった。それに対して現状は考えていたより多かったっていうところ、この数値、量の見込みの算出の難しさということを、令和6年度から第三次計画の調査に入りますので、これはいただいたご意見を真摯に受けとめて次の量の見込みの算出は、丁寧に行っていくということでご理解いただけたらというか、皆さんにまたご審議をいただくと思いますので、次の課題としていただけたらと思っております。
高尾会長	ということだそうです。だから、今の説明よくわかりますけれども。そうすると、他のところもどうなんだという話が出てくるわけですね。そういう点があるということ踏まえて、きちっとした調査をやっていただきたいということです。 はい、他にご意見がありましたらお願いしたいと思います。よろしいでしょうか。
桑原委員	今想定以上の現状ということで、計画と現状の乖離がおこっていますけど、想定は想定で変えられるということですけど、私達が知りたいのは現状どのくらい入っていて、待機というか入れない人がどのくらいいるとか、そういうのを知りたいなっていうところがあります。
こども家庭 支援課長	現状の値につきましては幼稚園が在園児数、保育園の方は在園児数に申請者数を足したものであるということで、すいません、現在ちょっと定員数が手元にございませんで、それもまた次期の検討の時に告示できるように、後日させていただきたいと思います。
高尾会長	はい、他によろしいでしょうか。 それでは特にご意見、ご質問がないようですので、次の議題に、行っていただきます。 続いて、次第2「その他」についてです。 事務局より、来年度の新規事業の中で、特に重要な「こどもの医療費助成事業」と「特別支援保育推進事業」について、事務局から委員の皆様へ説明を行いたいとの要望がありました。

	それでは、事務局より説明をお願いします。
こども福祉 課長	【資料 3 に基づき説明】
こども施設 運営課長	【資料 4 に基づき説明】
高尾会長	ご説明ありがとうございました。 昨今の急激な少子化への対策が求められ、また、子育てに関する多様なニーズへの対応も必要とされる中、ご説明いただいた事業は、子育て支援としてとても重要なものだと感じました。 これらの事業が滞りなく行われるよう、また、その他の子育て支援事業についても関係各課でそれぞれ取り組みを進めていただき、より市川市の子育て支援が推進されるようお願いします。 それでは、これにて令和 4 年度第 2 回市川市子ども・子育て会議を終了いたします。

【 午前 12 時 00 分 閉会 】